

(視聴覚)

効果的なＩＣＴ活用による指導法の研究

～児童が主体的にタブレットを活用して学び合う授業をめざして～

大阪市立恵美小学校 研究推進委員会

1. はじめに

本校では、「人間性豊かな子どもを育てる」を学校教育目標とし、「開かれた学校づくりを進め、笑顔あふれる教育活動を推進する」を学校経営の重点に設定して日々の教育実践に取り組んでいる。

本校の児童は、さまざまな生活環境を抱えながらも、明るく素直で子どもらしく、無邪気で人なつこく、好奇心も旺盛である。学習についても、与えられた課題については真面目に取り組もうとする。しかし、基礎基本となる学力が定着しにくい児童が少なくない。このような児童の実態から、平成21年度から3年間国語科の研究に取り組んできた。また、24年度は、これまで培った力をもとに自分の思いや考えを表現し、伝え合うことによりともに学び合う子どもを育てることを目標にし「伝え合う力を育成する指導法を探る」を研究主題とし指導法を工夫した。そのような活動を通して、自分達の地域を愛する気持ちを育てるとともに、自己肯定感を育てることができた。その取り組みの中で、反省点として出てきたのは、伝え合う方法としての効果的なＩＣＴ活用の指導法であった。また、それにもなって、ＩＣＴ活用は、子ども達が、互いに伝え合うための手段であるだけでなく、指導者が活用することにより「わかりやすく、楽しい授業」をめざすことができることがわかってきた。そこで、研究主題を「効果的なＩＣＴを活用する指導法の工夫」とし、授業の中で、効果的にＩＣＴを活用することによって、子ども達の理解を深める手立てとした。そして様々なＩＣＴ活用による授業実践を積み重ね、一つ一つの授業を検証していくことで、効果的なＩＣＴ活用によりわかりやすく楽しい授業作りをめざすことができた。

昨年度は、ＩＣＴの中でもタブレットを中心に活用した授業を作り上げながら「わかりやすく、たのしい授業」をめざして研究を深めきた。タブレットは、子ども達にとって魅力のある機器であり色々な使い方ができた。

本年度は、タブレットの良さを生かし活用する目的を明らかにする。また、授業のねらいを支える意図的なしかけとしてタブレットの活用をする。そして、今まで以上に児童にとって分かりやすい授業、楽しい授業また教師の側から考えて効率的な授業をめざして、研究に取り組んでいきたいと思う。

2. 研究の内容

(1) 研究の視点

- ① 児童が主体的にＩＣＴを活用しわかる喜びやできる喜びを実感できたか。
- ② 児童が自分の考えを持ち、話し合い活動でわかりやすく伝えることができたか。
- ③ 指導者が、学習のねらいに迫るためにＩＣＴを効果的に活用できたか。

- (2) めざす授業でのＩＣＴ活用の効果を高めるために、変化する社会の中で自律できる児童の育成をめざし、児童が、グループで話し合ったり一人の意見を学級全体で共有したりするなど、ともに教え学び合う協働学習の授業づくりを実践する。思考力、判断力、表現力につながる言語活動の充実を図る授業づくりを実践する。児童

一人一人の能力や特性に応じた学習活動の充実を図る授業づくりを実践する。

3. 実践事例

- 第1学年 道徳科「気持ちのよいふるまいを」
第2学年 国語科「たんぼぼ」
生活科「まちたんけん」
第3学年 算数科「はしたの大きさのあらわし方を考えよう」
第4学年 社会科「なくそうこわい火事」
第5学年 図画工作科「コマコマアニメーション」
第6学年 算数科「順序よく整理して調べよう」
家庭科「くふうしよう 朝の生活」
特別支援学級 第1学年 「似ているひらがなに気をつけて」

4. 研究の成果と今後の課題

研究の成果

- (1) どの授業もその授業に応じたタブレットのアプリを活用することで、児童は主体的にICT活用することにより分かる喜びやできる喜びを感じることができた。
- (2) 児童が、自分の考えを持ち話し合い活動で分かりやすく伝えることができた。
- (3) 指導者が、学習のねらいに迫るためにICTを効果的に活用できた。

今後の課題

- ・主体的に活用するには基礎的な技能の習得が必要である。使用する場を絞り込む必要がある。
- ・話し合い活動を工夫し進んで発表できるようにさらに指導を工夫する。
- ・タブレットを使用するルールを徹底させる。